

科 目 名	臨床心理学特論		副題	認知行動療法	
担 当 者	久保 義郎				
開 講 期	後期	単位数	2 単位	配当年次	1 ・ 2 年次
授業の概要	人間学の観点から、ケアリングの発想に基づく対人支援は重要であり、それを実現する具体的な技術・学問体系として、臨床心理学がある。 本講義では、主に認知行動療法の発想や技法を学び、現場での対人支援にそれらを生かし、効果的な実践の実現を狙う。受講者は予め提示された課題について学習した上で各自発表し、それに基づいて全員で討論する形式を主とする。現場における各人の問題意識を授業に反映させたい。 また、同一の事例であっても、障害福祉・リハビリテーションの観点と、発達支援・特別支援教育の観点とでは異なるアプローチが考え得ることを示したい。				
授業のねらい・到達目標	対人支援の現場で生じる問題について、認知行動論的な見立てとそれに基づくアプローチ方法を立案できるようになることを目標とする。				
授業の方法・授業計画					
1	オリエンテーション（授業の進め方）				
2	認知行動療法概説（レスポナント系）				
3	認知行動療法概説（オペラント系）				
4	認知行動療法概説（認知系）				
5	文献発表・討論、および補足講義（Activities of Daily Living）				
6	文献発表・討論、および補足講義（言語・コミュニケーション）				
7	文献発表・討論、および補足講義（社会性・Social Skills Training）				
8	文献発表・討論、および補足講義（親・家族）				
9	文献発表・討論、および補足講義（学校）				
10	文献発表・討論、および補足講義（療育）				
11	文献発表・討論、および補足講義（リハビリテーション：機能改善）				
12	文献発表・討論、および補足講義（リハビリテーション：代償訓練）				
13	文献発表・討論、および補足講義（環境調整）				
14	文献発表・討論、および補足講義（連携・協働）				
15	まとめ				
期末					
授業に関する連絡	初回を除いて受講者が資料作成と発表を行う。そのため、担当回数分、資料作成の時間が必要となるので、スケジュールの調整に注意すること。				
評価方法及び評価基準	発表内容70%、討論30%の割合で評価する。				
事前・事後学習の内容	事前学習としては、次回発表者の資料を読み、事後学習としては、発表と討論、および教員のコメントをノートしたものを読み直す。				
履修上の注意	講義科目ではあるが、発表や討論など、演習としての要素が多分にあるので、欠席をしないこと。				
テキスト	行動療法研究、特殊教育学研究、福祉心理学研究、カウンセリング研究の中からテーマに該当する論文を用いる。				
参考文献	福井 至 著『図解による学習理論と認知行動療法』培風館 2008 坂野雄二 著『認知行動療法』日本評論社 1995 熊野宏昭 著『新世代の認知行動療法』日本評論社 2012				